

こんなふうに
生きてみよう...

席がとなりの 特別なクラスメート

アンドレア(イタリア)

クラスメートのなかで、リカルドはかわっていました。

話す代わりに、暴力をふるうので、すぐにみんなから孤立するようになりました。

ぼくもけんかをしたくないので、みんなと同じように、彼が座っているところから離れて座りました。

国語の先生が席替えをしました。ぼくはどの席になったかというと、彼の隣の席になってしまいました。でもいのちの言葉を思い出しました。

彼と話しても何の役にならないとわかっていました。彼をイエス様として受け入れることは、はじめちょっと難しいことでした。でも時が経つにしたがって、彼は少し変わってきて、落ち着いてきました。

もうすぐ学校も終わりに近づいていますが、リカルドは「好少年」とは言えませんが、クラスメートに暴力をふるったり、からかったりはしなくなりました。それに先生たちも、前のように彼の両親を呼びつけることもなくなりました。



他の人の
良いところを
みるように
努力します

いのちの言葉 | 02

神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。(ローマ 15, 7)

使徒パウロは、前もってローマの信徒たちに手紙を送りました。

ローマのキリスト者共同体は、社会、文化、宗教的にも大変バラエティに富んでいました。彼らの間では人間関係がぎくしゃくし、無理解や競争心も見られたからです

パウロは、意見や習慣の違いがあっても、各々が神への愛ゆえに行動すべきだと確信していました。自分と考えの違う人を裁いてよい理由はなく、むしろ共通善、「互いの向上」、を目指すべきだからです。

みんなが過ちをおかすことを理解して、お互いに受け入れ合うようにしましょう。

私たちは、自分を守る姿勢をやめて相手に耳を傾け、変化に対しては柔軟に対応し、敬意と愛をもって違いを受け入れるよう、招かれています。

パウロが示しているのは、人の個性を取り去る画一化ではなく、異なる人たちの間で築く豊かな交わりです。

他の人と自分の考えが違うとき、
き難く感じるのはこんな時、
.....

では相手の良いところを認めるようにしてみましょう。いやだなと思う相手でも、キリストがその人のために命を捧げられたことを思い出しましょう。

家族や学校、部活や友達の間で
難しいと思う人は...

その人の良いところを見つけるようにして、こちらから何か働きかけてみて、新しい関係を築いていくように努力してみます。

私がかかわっている場所でこの
ような態度で生きよう
にみんなを巻き込んでいくにはど
うしたらいいでしょうか。